

事務事業名		市道野々田川口橋線通学路整備事業		<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画掲載事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略掲載事業
政策体系	政策名	04 潤いに満ちた快適な都市環境の創造		事業期間	
	施策名	15 良好な生活空間の創造		区分	
	基本事業名	01 生活道路の整備		期間限定複数年度	
根拠法令		-		※期間欄に計画期間を記入	
所属	部課名	都市整備部建設課		【計画期間】	
	課長名	長岩 智徳		令和4 年度～ 令和7 年度	
	係名	土木係	電話	0192-27-3111	
	担当者	小松 奨史	内線	313	
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				※全体計画欄の総投入量を記入	
本路線は、大船渡小・中学校の通学路及び津波避難場所として指定されている大船渡地区公民館への避難経路となっているが、現況の歩道の段差(マウントアップ構造による縦断方向の凸凹)が激しく通行に支障となっていることから、地域住民の利便性向上のため歩道改良を行うものである。 【計画期間】 ・測量調査設計(1式) 令和4年度～令和5年度 ・補償業務 令和6年度～令和7年度 ・工事施工(改良約520m×両側=1040m) 令和6年度～令和7年度 事業費は、委託費、補償費、工事費、事務費として支出される。				全体計画(※期間限定複数年度のみ)	
				総投入量(千円)	
				事業費	財源内訳
					国庫支出金 84,380
					都道府県支出金 0
					地方債 68,800
					その他 0
					一般財源 238
					事業費計(A) 153,418
				人件費	正規職員従事人数 8
					延べ業務時間 720
					人件費計(B) 2,880
					トータルコスト(A)+(B) 156,298

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
前年度実績(前年度に行った主な活動)	名称	単位
測量設計	ア 施工延長	m
今年度計画(今年度に計画している主な活動)	イ	
工事施工	ウ	
用地補償		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
市道野々田川口橋線	名称	単位
	カ 計画総延長	m
	キ 主たる利用者数	人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	ク	
歩道の整備(縦断方向の段差解消)	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
	名称	単位
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)	サ 整備済み道路総延長	m
児童生徒等が安心して通学できる歩行環境確保の実現。	シ 整備率(整備総延長/計画総延長)	%
	ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	事業費	財源内訳	単位	年度						
				2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(目標)	7年度(目標)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円			6,419	5,251	32,775	40,663	
		都道府県支出金	千円			0	0	0	0	
		地方債	千円			5,200	4,293	26,200	32,500	
		その他	千円			0	0	0	0	
		一般財源	千円			51	4	25	37	
		事業費計(A)	千円	0	0	11,670	9,548	59,000	73,200	
	人件費	正規職員従事人数	人			2	2	2	2	
		延べ業務時間	時間			240	240	240	240	
		人件費計(B)	千円	0	0	960	960	960	960	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	12,630	10,508	59,960	74,160	
⑤活動指標	ア	m		-	-	0	0	180	160	
	イ									
	ウ									
⑥対象指標	カ	m		-	-	520	520	520	520	
	キ	人		-	-	1,200	1,200	1,200	1,200	
	ク									
⑦成果指標	サ	m		-	-	0	0	180	340	
	シ	%		-	-	0	0	35	65	
	ス									

事務事業ID	1865	事務事業名	市道野々田川口橋線通学路整備事業
--------	------	-------	------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	対象路線は通学路にも指定されており、日常的に子どもから高齢者まで幅広く利用されているが、沿道の宅地の乗り入れ部ごとに歩道が切り下げられ、縦断方向の波打ちが激しい状態である。この影響で利用者の通行に不便を来していることから、解消に向け地元地域住民からの強い要望を受け、令和4年度から事業を開始した。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	地域の理解度が進み、協力的になった。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	早期完成を強く要望されている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ▽ 理由・内容 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 改良整備により、安全・快適に利用できるため、都市環境の向上につながる。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ▽ 理由・内容 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 公共施設の道路整備は、行政が行うことが妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ▽ 理由・内容 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 縦断方向の段差(波打ち)が激しい区間の改良要望であることから、対象範囲は適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ▽ 理由・内容 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 十分な幅員で改良整備を行う歩道計画となっていることから、これ以上の成果向上の余地が認められない。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある ▽ 理由・内容 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 交通の安全性に欠き、快適に利用できない。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ▽ 理由・内容 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 必要最小限の費用で実施することから、削減の余地はない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ▽ 理由・内容 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど) 必要最小限で対応していることから、削減の余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ▽ 理由・内容 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 一般に供する道路であることから、受益者負担になじまない。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 令和7年度に事業完了予定。																							
1 現状維持	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> <p>※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。 (現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」) (終了・廃止・休止の場合は記入不要)</p>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		●	×																					
	低下		×	×																					

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
1 現状維持	令和7年度に事業が完了する予定。事業効果の早期発現に向けて着実に事業を進めていく。